

道産材100% 2×4住宅

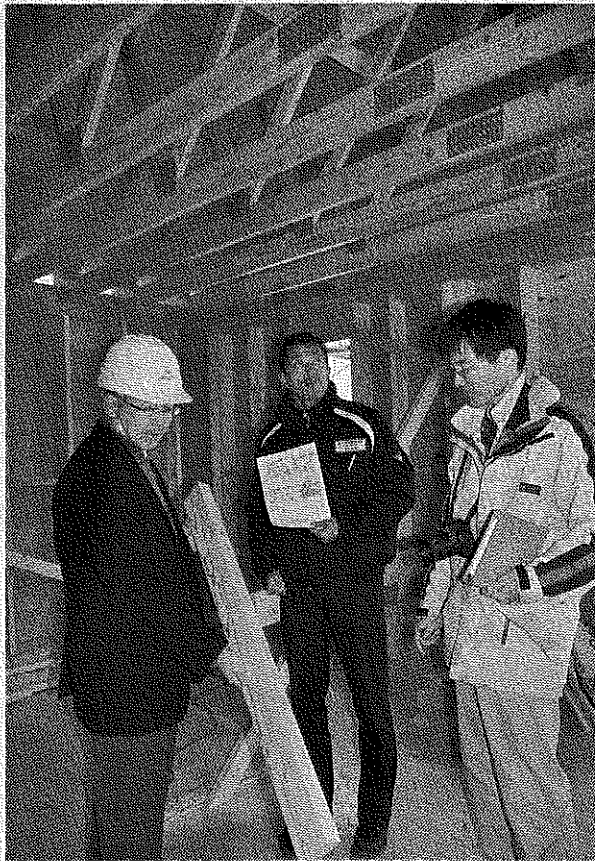
全国初 帯広の丸十木材が建設中

十勝毎日新聞

幕別産「環境に優しい」カラマツなど

丸十木材(帯広市、中田隆之社長)は市内西3南24で、地域材を100%使った木造組壁工法(ツーバイフォー工法)のモデル住宅を建設している。林野庁の補助事業「地域型住宅づくり支援事業」に採択され、関係団体が連携して進めている道産材普及活動の一環。全国でも初の取り組みで、4月中の完成を予定している。

NPO北海道住宅の会、道立林産試験場、十勝2×4協立林産試験場、十勝2×4協組合、関木材工業、丸十木材(赤坂正会長)、木造建築の7団体が進めている。



道産材のみで建設が進められている丸十木材のモデル住宅(写真左から赤坂会長、中田社長、上島さん)

ツーバイフォーは、はりど柱で造る通常の木造工法とは違い、パネル(壁)と床で建物全体を支える工法。カナダが発祥で、輸入材を使うケースが大半だった。

①ツーバイフォー工法のシエアが6割②カラマツの主産地③木材加工・施工技術が高いなど、十勝の地域性を考慮。カラマツの製材技術が向

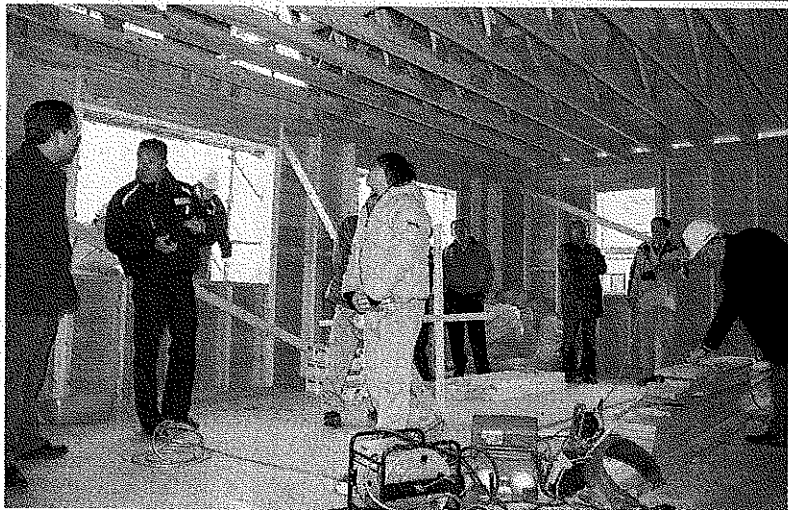
上し、全国初の試みが実現した。構造材だけでなく建物すべてで、幕別産カラマツなど道産材を使用している。

モデル住宅は2階建て、延べ床面積は134・12平方メートル。50%の進捗で、構造自体は組み上がっている。完成後は丸十木材のモデル住宅として活用する予定だ。

カラマツをめぐっては、人工乾燥など加工技術が進歩。道林試が同事業で使用する木材を検査したところ、輸入材と同程度かそれ以上の評価を得た。道産材の価格は輸入材に比べて2倍程度だが、北海道住宅の会事務局の上島信彦氏は「十勝の木材を使用するので地場経済への寄与度は圧倒的に高い」とする。

丸十木材の中田社長は「道産材の使用は運輸時の温室効果ガス排出も少なく環境にも優しい。普及させたい」と話していた。建築現場の見学も受け付けている。問い合わせは同社(59・2101)へ。

(大谷健人)



道産材のみで建築が進む帯広市内のモデル住宅

北海道新聞

ツーバイフォー

道産材でモデル住宅

道内7団体共同 帯広に来月完成

道産材だけを用いた、ツーバイフォー（枠組み壁工法）によるモデル住宅が、帯広市内で建築されている。日本木材総合情報センター（東京）によると、国産材のみを使ったツーバイフォー建築は全国でも珍しい。完成予定は4月で、一般に公開される。（長谷川賢）

国産材の消費拡大を進める林野庁の補助を受けて、NPO法人北海道住宅の会（札幌）が中心となり、十勝管内の製材業者や建築業者、道立林産試験場旭川）など道内7団体が共同で取り組んでいる。建材は十勝産カラマツが中心で、オムニスツが中心で、林産協同組合（幕別）と関木材工業（新得）が製材として供給する。事業に携わる丸十木材（帯広）の中田隆之社長は輸入材より国産材の方が強度があると

フォー建築に用いられる建材は100%近くが北米などの輸入材で、部分的に国産材を使う建築会社や建材メーカーはあるものの、国産材のみの建築は全国でも例がないという。

◆ ツーバイフォー（枠組み壁工法） 柱や梁を軸に建てる日本の在来工法とは異なり、建材を箱形にして壁や床を支えるのが特徴。気密性や耐震性に優れるとされる。普及率は全国で約15%、全道で約20%、十勝管内では65%前後と高い。